

技芸，技能的職業の練習開始時期に関する調査

§ 1. 目 的

学習の条件として準備性の必要が力説されている。すなわち，学習内容すなわち何を学習するかによって，それを学習するに堪え且つ，適する身体的精神的成熟段階に達しておらねば，十分な学習効果を望むことはできない。

また，その準備が完了した後余り遅れて学習を開始したのでは，学習の効果がうすらぐという適時性の問題が採り上げられている。

主として手腕その他身体的動作，体力を必要とする技芸，技能的職業は何歳頃から練習を開始したら職業的成功が得られるか，またその適時性は幾歳頃か，そしてその理由を明らかにしようとして本調査を実施した。

§ 2. 方 法

すでに，技芸，技能的職業において成功し，その道の指導的地位にある人々に別紙の如き調査票を郵送して回答を求め，それを整理した。

しかし，多くのアンケート調査法と同様に非常に回答用紙の回収率が悪く，決定的結論を導きだすには不都合であった。

§ 3. 対象職業 回答件数

技芸，技能的職業として，洋楽家（作曲，声楽，器楽）邦楽家，日本舞踊家，洋舞家，野球選手，相撲とり，を対象にした。

野球選手はセントラル，パシフィック両リーグ所属球団の第一軍全選手および監督。

相撲とりは相撲協会所属各部屋の幕内力士全員。

技芸者は東京の職業別電話加入者番号帳を使用して，洋楽，邦楽，舞踊の職業人を選択した。

回答の職業別件数は次のとおりである。

野	球	27人
相	撲	14人
舞	踊	11人
洋	楽	8人
邦	楽	10人

§ 4. 調査事項

1. 確認事項

現在の職業名 所属団体名 氏名
生年月日 地位

2. 調査項目

- イ 現職の基礎または初歩を見よう見まねあるいは遊びとして始めた年齢（まねごと年齢）
- ロ それを先生またはコーチについて正式に習い始めた年齢（正式開始年齢）
- ハ 現職と同じことをする部、クラブに所属し部員または選手として活動し始めた年齢（部活動開始年齢）
- ニ 現職に正式に就いた年齢（就職年齢）
- ホ 現職は理想として何才頃から始めるのを適当と思いませんか（開始理想年齢）その理由。
- ヘ その年齢未満ではなぜ不適當か
- ト その年齢以後ではなぜ不適當か
- チ その年齢以後で始めて成功する為めの条件として何が必要ですか
- リ 現職と関係あったと考えられる趣味または作業名
- ヌ 現職に入る前に就いたことがある職業名とその年数

§ 5. 結論

さきに述べた如く、回答数が非常に少ない為めに結論を導き出すことは危険であるが、一応蒐集し得た資料に関する限りで結論を作ることにする。問題はあろうが代表値として平均値を用いることにする。

1. 調査対象者の調査時における年齢は、体力を必要とする職業が若く

相撲	20才から45才	平均	29.9才
野球	20才から52才	平均	29.6才
舞踊	27才から64才	平均	41.5才
洋楽	33才から60才	平均	46.8才
邦楽	42才から66才	平均	55.9才

2. まねごと年齢、正式開始年齢、部活動開始年齢、就職年齢、開始理想年齢のいずれも職業が異なるごとに変っている。職業活動に必要とされる身体的発達程度、機能、体力、精神的発達程度の相違からこの差異が生ずるものと考えられる。

3. 5種の年齢毎に、それぞれ一番早く始めた者と一番遅く始めた者との年齢的開らきをみると舞踊、洋楽、邦楽の如く体力を余り必要とせず純技巧的であるものはその開らき

が大きく、体力を要する野球、相撲はその開らきが少ない。

4. どの職業においても、その職業の作業(動作)をやる上に必要最低度に身体的精神的に発達したならばできるだけ早期にあそびでも正式でもよいから練習を開始した方が伸びが早く、且つ有利であるとされている。従って、そこから開始理想年令が定められて来る。
5. 部活動開始年令は、中学校または高等学校以後のことであり、部活動のない職業的活動はおくれることになる。
6. 就職年令は、準備性の問題とは全く別個に考えるべきもので、その職業の慣習伝統と運命、独立営業の可能なものと被雇用のもの、対社会的関係から定められて来るものである。
7. 舞踊、邦楽、洋楽は芸能界の特殊な伝統、事情(家元制など)や家庭の事情で、ある場合は3才、4才という幼児期に半ば遊びとして練習が開始され、殆んど高等学校に入る前に手ほどきを受けているが、先生またはコーチについて正式に習い出すのは、舞踊、邦楽では3年ほど遅れて小学校の中頃からである。洋楽の方は、今日の青少年の場合とは多少趣を異にするようであるが、調査資料に関する限り、正式に習い出すのは、高等学校在学中である。

部員または選手としての活動は、職業的内容の性質上中学校以下では殆んど見うけられず、高等学校、大学に入ってからである。

しかし、職業として始めるのは、前述の封建的特殊事情のある舞踊、特に邦楽では、異状に早い場合もあるが、19才また20才の成年に達してからである。

8. 投げる、打つ、走る、取り組むなどの運動機能、体力、力量の発達を必要とする野球や相撲になると、遊びとして開始するのは早くて小学校に入ってからである。先生またはコーチについて正式に習い始めるのは、野球では小学校上級から、相撲では高等学校に入ってからである。部活動、選手活動は正式練習開始と殆んど同時である。しかして職業生活の開始は相撲は中学校卒業後であり、野球は高等学校卒業後である。
9. 開始理想年令は、平均で舞踊8.1才、邦楽8.8才、洋楽11.8才、野球15.4才、相撲16.4才となっているが、何故にこれらの年頃が練習開始の理想であるかという、身体的条件(身体各部とその機能の発達状況)と精神的条件(人間関係を含む)とから説明されている。

(1) 身体的条件

身体各部とその機能、体力、力量が各職業の身体的動作をやるに必要な程度までに発達して来たら直ちに練習を開始して、発達の波に乗って練習して行くと芸も伸びるし、身体も伸びるとするものと、それらが成熟してから練習をした方がよいとするものがある。前者では若年になり、後者では遅れることになる。

- a 運動神経が相当に発達すること
- b 手腕の大きさが適当になること(ピアノの鍵に適するなど)
- c 力が適当になること(野球、相撲など)

- d 肺活量が適当になること（吹奏楽器）
- e 発音，音感が正しくできるようになること
- f 声変り以後（声楽）
- g 身体各部に柔軟性のある間
- h 身体が運動の激しさに堪えるようになってから
- i 年頃を過ぎると，教えられた通り，自分で考えた通りにやろうとしても動作をその通りにやれなくなる。

(ロ) 精神的条件

- a 理解力，おぼえる力が発達して来ること
- b 音楽的情操が発展して来ること
- c 芸に対する慾が出てこなければ無理である
- d 表現力が発展して来ることが望ましい
- e 芸を無理なく素直に覚え，芸に融けこみ芸が身につく
- f 年頃を過ぎると，手順を意識して，理ぜめに覚えようとするのが障害になる
- g 年頃を過ぎると，記憶力，創造力が喪失して来る
- h 若い間は指導し易い
- i 年頃を過ぎて習い始めた時，若い人について行けず，負けるので，稽古が挫折する
- j 他人につかわれるのが嫌になる（芸能界は実力主義であるから）
- k その社会になじめない。若い間は順応性が大である
- l 若い間に修業しておかないと，一人前として働く期間が短くなる

10. 準備性とか適時性とかは余り問題にならない。幾才から稽古練習を始めても一人前になり得るといふ人もいる。

即ちよい師を得て，根気と努力を積むことであるという。

しかし，この芸能の道は努力次第という訳には行かない。素質が大いに物をいう世界であるという人もある。

要するに，24.5才までに正式に練習を始めればその道の名人，達人となることはむづかしくとも，先生をする位にはなる。但しそれには素質と努力とよき師とが必要である。

年令が長ずる程，その職業の動作を体得することができなくなり，理窟で覚えようとする。従って，習っている間，教えている間は，年長者がわかっているように，できるように思われる。しかし，師匠の模範通りにやるとか，自分が考案したとおりにやるとかとなると，そのとおりにやれないことが往々ある。また，模範や意図とおりでないことがはっきりわかる。このために，修業が挫折することがある。

さらに，若い人々と一緒に修業を始めると，若い人の進歩が早く著しいために，年長者の方が挫折することも多い。

§ 6. 調査項目別考察

イ、現職の基礎または初歩を見よう見まねあるいは遊びとして始めた年令（まねごと年令）

a 舞 踊

舞踊は5職業中一番若年から練習を始め、3才ないし13才、平均6.3才である。

50%が6才未満で、40%が小学校時代に練習を開始しており、遅い人でも13才には始めている。

b 邦 楽

邦楽は3才ないし15才、平均8.0才で練習を開始している。そして、30%は6才未満で、40%が小学校時代に、30%が中学時代に練習を始めている。即ち義務教育終了までに始めている人が多い。

c 洋 楽

洋楽も遊びとしての開始は非常に早く、3才ないし13才、平均8.4才である。6才未満で開始した者は25%、小学校時代に開始した者は50%、25%は中学前半に開始している。洋楽は小中学時代に練習を始めるのが普通のようなのである。

d 野 球

野球は8才未満で練習を始めた者は14.8%で、小学校2年以前で始める者は例外である。併し8才以後小学校在校中に始めた者は59.2%に及び、中学時代に始めた者22.2%

まねごと年令

年 令	舞 踊	邦 楽	洋 楽	野 球	相 撲
3	4	2	1		
4		1	1		
5	1			1	
6	1	1	1	2	2
7	1	1		1	
8		1		3	1
9			1	4	
10	2	1	2	5	2
11				4	
12		2	1	5	2
13	1		1		1
14				1	
15		1			4
16				1	1
17					
18					1
N	10	10	8	27	14
A・V	6.3	8.0	8.4	9.9	12.2
M・V	± 2.86	± 3.00	± 3.03	± 1.87	± 3.07

で、高等学校で始めたというのは1人である。ちなみに5才から16才の間に開始年齢は分布し、平均は9.9才である。

e 相 撲

相撲は6才から18才の間に遊びとして始め、その平均は12.2才で他の職業に比しておそい。

小学校以前に始めた人は皆無で、且つ小学校時代に始めた者も35.7%で、割に少数である。中学校時代に始めた人も21.4%で、高校時代に始めた人が42.9%が一番多い。

ロ、それを先生またはコーチについて正式に習い始めた年齢（正式開始年齢）

a 舞 踊

舞踊は3才から15才の間に正式に習い始め、その平均は9.3才である。

18.2%は3才で既に正式練習を開始しているが、これはこの世界の特殊事情によるものでむしろ例外である。36.4%は小学校時代に先生につき始め、中学校時代に正式に習い始めた者は27.3%で、高等学校時代に始めた者は18.2%でこれはまた少ない。

b 邦 楽

邦楽の正式練習開始年齢は3才から20才の広い間にまたがり、平均は11.2才である。

正 式 開 始 年 令

年 令	舞 踊	邦 楽	洋 楽	野 球	相 撲
3	2	1			
4		1			
5					
6	2	1			
7	1	1			
8					
9			1		
10	1			1	
11				1	
12	1	1		4	2
13	2	1		7	
14	1	1		5	
15	1	1	2	5	3
16				3	3
17					
18		1	4		1
19					
20		1			
}					
25			1		
N	11	10	8	26	9
A・V	9.3	11.2	17.0	13.6	15.0
M・V	± 3.88	± 4.96	± 3.00	± 1.27	± 2.00

6才未満で始めた者は20%，6，7才が20%，中学校時代が20%，高等学校時代，大学時代共に20%で，実に一定の傾向を捉え難い。

c 洋 楽

洋楽の正式練習開始年齢は，意外におそく，9才ないし25才，その平均17.0才である。

9才が12.5%，15才が25.0%，18才が50.0%，25才が12.5%で，大学時代が一番多い。

d 野 球

野球は正式指導を受ける年齢は10才から16才の間で，平均13.6才である。

小学校時代に始めた者は5，6年生時代でその比率は7.7%で，中学校時代に始めた者は61.6%，高等学校在学中に正式に始めた者は30.8%で，中学校以後に野球の正式練習は始められている。

c 相 撲

相撲を正式に練習し始めた年齢は12才ないし18才で，そのひらきは非常に狭く，平均年齢は15才である。

12才で開始した者22.2%で，高等学校時代に始めた者が66.7%で，これが一番多く，18才で正式に練習を始めた者は11.1%に過ぎなかった。

ハ、部員または選手として活動し始めた年齢（部活動開始年齢）

a 舞 踊

舞踊は小学校，中学校に部がないのが普通で，高等学校，大学でも該当の部があるのは稀である。従って，部活動開始年齢は8才から31才の広い間に分布され，平均も18.3才であった。

8才から13才，即ち小学校から中学校の間に部活動を始めた人は22.2%に過ぎず，15才から21才の高等学校から大学時代に部活動をしたという者が66.7%である。

b 邦 楽

邦楽も亦小学校や中学校で部，クラブを設けることは殆んどなく，高等学校でも部をおくのは稀である。従って，部活動開始年齢は8才から23才に亘り，その平均は17.0才である。

小学校，中学校，高等学校の間に始めた者は僅に28.6%で，大学時代に始めた者が57.2%であった。

c 洋 楽

洋楽は今日では小学校でも部やクラブを置くところが多いが，調査対象者の学校生活時代では少なかったようで，部活動をした者が少なかった。そしてその年齢は15才から24才までの間で各年齢1人ずつで平均20.2才であった。

d 野 球

野球は部活動，選手生活が盛んに行なわれ，11才から16才の狭い範囲に分布され，平

均13.8才である。

小学校6年で部員となった者が7.7%，中学時代に部員活動を始めた者が53.9%，高等学校時代に始めた者が38.4%である。

e 相 撲

相撲の部，クラブは中学校以上の学校に設けられているらしい。部活動開始年令は12才から19才の間に分布され，平均は15.1%である。

中学校時代に部活動を始めた者は33.3%，高等学校時代に始めた者44.5%，大学になって始めた者22.2%である。

部 活 動 開 始 年 令

年 令	舞 踊	邦 楽	洋 楽	野 球	相 撲
8	1	1			
9					
10					
11				2	
12				4	2
13	1			6	1
14		1		4	
15	1		1	6	2
16				4	2
17					
18	1	3			1
19	1		1		1
20	2	1	1		
21	1				
22					
23		1	1		
24			1		
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31	1				
N	9	7	5	26	9
A. V	18.3	17.0	20.2	13.8	15.1
M. V	± 4.30	± 3.43	± 2.64	± 1.32	± 1.90

二. 現職に正式に就いた年令 (就職年令)

a 舞 踊

正式に舞踊を職業とした年令は8才から39才の広い範囲に亘り，平均は22.4才である。

8才で始めた者はこの世界の封建的特殊事情によるものである。17才から22才の間が多く，63.6%がこの間に始めている。39才が2人あるが，これは舞踊家そのものではなく，この世界の特殊な地位のものである。

正式に先生について練習を始めた年令と就職年令との間に著しい開きがあるのがこの

職業の特色で、その間に平均で13.4年ある。

早く練習を開始する必要を認めながら、職業とすることの晩いには何か理由があるのではなからうか。

b 邦 楽

邦楽は3才から27才とこれも広い範囲に亘っているが、平均は16.3才である。3才、4才に1人ずつあるが、これはこの世界の封建的家元制の所産である。ここでも16才から20才が多く、55.5%を占め、残りは25才1人、27才1人である。

正式に練習を開始した年令と就職年令との喰い違いは割合に少なく、平均5.9年である。

就 職 年 令

年 令	舞 踊	邦 楽	洋 楽	野 球	相 撲
3		1			
4		1			
5					
6					
7					
8	1				
9					
10					
11					
12					
13					
14					1
15					4
16		2			5
17	1				1
18	1	2	2	8	2
19	3			5	1
20		1		2	
21	1			1	
22	1		1	7	
23				2	
24			1	2	
25	1	1	1		
26					
27		1			
28			2		
34			1		
39	2				
40			1		
N	11	9	9	27	14
A. V	22.4	16.3	26.3	20.3	16.1
M. V	± 6.55	± 5.86	± 5.48	± 1.88	± 1.04

c 洋 楽

洋楽は18才（約20才頃）から40才の間に分布し、平均26.3才で非常におそい。20才代が55.5%で、34才1人、40才1人、18才2人である。

正式練習開始年令と就職年令とのへだたりは割に大きく、平均9.5年も喰い違っている。

d 野 球

野球は18才から24才の割に狭い間に分布し平均20.3才である。高等学校を卒業して21才までに就職する者は59.3%、大学を卒業して24才までが40.7%で、学校の卒業と就職との関係が明白である。

正式に練習を開始した年令と就職年令との喰い違いは6.8年である。中校時代に練習を開始し大学を卒業して就職する者があるためである。

e 相 撲

相撲も分布幅の狭い職業で14才から19才までで、平均16.1才で就職している。

中学校を卒業してから高等学校卒業までの間に71.4%、高等学校卒業後19才までに21.4%が就職している。これも学校の卒業と就職との関係が明白である。

さらに、この職業は、正式練習開始年令と就職年令との喰い違いは僅に平均0.4年である。

正式練習開始年令と就職年令との喰い違い

年	舞 踊	邦 楽	洋 楽	野 球	相 撲
0		1	1		6
1					1
2	1	1		1	
3					3
4				2	
5		3		3	
6	1			6	
7			1	3	
8	1		2	6	
9	1	2	1	3	
10	1		1	2	
11					
12		1			
13					
14					
15	2		1		
16	2				
19			1		
24	1				
26	1				
A. V	13.4	5.9	9.5	6.8	0.4

ホ、現職は理想として何歳頃から始めることが適当か。

a 舞 踊

理想的練習開始年令は平均8.1才で、4才ないし8才の間を理想とするものが81.8%あり、且つ4才と5才とでそのうちの77.8%を占めている。

理想的練習開始年令とまねごと年令との喰い違いは平均3.2年、また正式練習開始年令との喰い違いは4.1年で、僅であるが、就職年令との間には13.9年もの開きがある。

9才以後を理想の開始年令としている人々の理由は、

身体がしっかりして来るからとか

進歩が著しく現れるからと、いっているが8才以下を理想の開始年令とした人々の大部分は、

この年頃になれば、既に運動神経は発達し、自分で考えることができるようになり、また身体ができて来て、しかも柔軟であるし、さらに、芸を身体で感じとり、芸に融けこめるからともいっている。

この年令以下では何故不適當かという点、骨がやわらか過ぎ、脚足の屈折に無理が来るなど身体的に負担が重過ぎるとするものが 3件、

理解力が不足で、覚え、のみこみが悪いとするものが 5件

忍耐力が不足であり、自分勝手な踊りをするとするものが 3件

運動神経の発達が不十分とするものが1件である。

この年令以上を不適當とする理由は、

学業の方が忙しくなり、稽古に専念することができなくなるが 4件。

手順を意識して覚えたり、頭がさきに進んで、芸を体得することができず、先生の示す通り或いは自分が考えるとおりに身体を動かすことができず、素直に覚えられない、とするのが 4件。

身体の動きが硬くなるが 2件

である。

理想的開始年令以後に始めて、成功する条件としてあげられたことは、

努力と練習と根気とねばりが必要だというのが大部分で、天分のあること、好きであること、健康であること、身体がやわらかであること、惰性におちいらぬこと、感受性が強いこと、などが各1件ずつあった。

b 邦 楽

理想的練習開始年令は5才ないし12才の間とされ、平均8.8才であった。5才ないし7才とした人は44.5%、10才、12才とした人は55.5%で、小学校までに練習を開始するのがよいようである。

理想的練習開始年令とまねごと年令との喰い違いは2.1年、正式練習開始年令との喰

い違いは4.2年で、大体において理想的年令に練習を開始している。但し就職年令との間には10.1年のひらきがある。

若年の方を理想的練習開始年令とした人々の理由とするところは
無意識のうちに頭に入るとか、身につくとか、覚えがよいからというものが 5件
音感が発達してき、音楽的情操の函養ができるが 1件
手指が柔軟であるが 1件
職業感が出て来るが 1件

である。

10才、12才、の方を理想とする人々の理由は、

音感の発達を知るのに時間がかかる 1件

今日では教える日数が昔より少なくなってきたから、中学校に入るようにならないと覚えられないが 1件

理想的練習開始年令以前では何故に不適當かという。

余り年少では理解力が乏しく、慾がないというのが 6件。

楽器の大きさ、吹奏に要する肺活量から規定されるし、発音に無理があるという。

この年令を過ぎてしまっでは何故に不適當かという。

全然駄目というのではなく生活の為めの職業としての程度ならやれるだけで、名人の域へ進むのはむづかしいというだけあるとっている。

芸道一筋には行きかねる。

理論が先きにたち素直に覚えられない。

手や骨が硬くなる。

というのである。

理想的開始年令以後に練習を始めて成功する条件としてあげられたことは、

熱心と努力と研究心 (5件)。音感、芸術的直感などの素質があること (2件)。興味のあること (2件)。よき師をもつこと (2件) などであったが、

おそく練習を始めたから絶対成功はおぼつかないというものではないとするものも3件あった。

c 洋 楽

理想的練習開始年令は3才から24才の広い範囲にまたがり、平均は11.8才である。

3才、5才の幼児期とするものが33.3%、8才、10才の小学校時代が22.2%、中学校、高等学校時代が22.2%、20才以後が22.2%で、幼少時代が一応よいようであるが、それは明確な意見ではないようである。

理想的練習開始年令とまねごと年令との喰い違いは4.0年で割に小さいが、正式練習開始年令との喰い違いは8.6年で相当にひらいており、就職年令との喰い違いは更にな大きくなって13.6年になっている。

勘を重んずる人、音楽的感觉を養うことが大切だとする人は早期開始をよしとし、
声楽家は変声期以後をよしとし、大きな楽器を奏するには手腕がそれ相当に発達し、
吹奏楽器の人は肺活量が相当大きくなってからをよしとしている。

また、理解力、表現力を必要とするから基礎教育が終了してからのの方がよいとする意見もあった。

さらに、多少練習がおくられて始められても28才から30才頃までは不適當とはいえない。
ただ、練習開始がおくれると、記憶力、創造力がなくなるおそれがあるとするもの2
件、専門家とは成り難いとか、早く一人前に成っておく必要があるとするものが各1件
づつあった。

今日までわが国の洋楽界が余りふるわなかったのは正式練習開始年齢がおくれていた
為めではなからうか。

理想的練習開始年齢以後に練習を開始して成功する条件としてあげられたものは、同
様に努力（5件）、素質（2件）、よき師（1件）、周囲の理解と環境（2件）である。

d 野 球

理想的練習開始年齢は平均15.4才であるが10才から23才の広い範囲にまたがっている。
小学校の上級から中学校時代が43.4%、高等学校時代が13.0%、大学時代が39.1%、23
才という回答が1件あったが、この答は質問の誤解のようである。

理想的練習開始年齢とまねごと年齢との喰い違いは他の職業の場合より僅に大きく、
5.6年、正式練習開始年齢との喰い違いは3.5年で、この方は割合に小さかった。就職年
令との喰い違いは芸能関係の職業に比して遙に小さく5.4年に過ぎない。

理想的練習開始年齢を定める為めの理由は、身体的に野球の活動に堪えられることが
一番多く考えられて16件に及んでいる。その他の理由として、興味をもつこと、若い間
に基礎を学んでおくこと各2件、野球を理解することが1件であった。

理想的練習開始年齢以下では不適當とする理由も、身体的未発達、体力不足をあげた
ものが14件、これに関連して、職業病にかかり易い、悪い癖がつく、が各1件。

精神的理由として、考え方が未熟、精神力不足が各1件あった。

その年齢以上で不適當とする理由は、

身体がかたまってしまふ（7件）

基礎訓練ができない（3件）

伸びがおそい、のみこみが悪い（3件）

おくられて始めると長く就業ができない（2件）

素質をみる期間が必要（1件）

などであった。

練習を晩く始めても成功する為めの条件として上げられたものは、

努力と気力と精神力（13件）

素質 (11件), 体力 (4件), 技術 (2件)

となっているが, 年令に制限はないとするものが5件あったと共に, 努力すれば成功するというのも疑問で, そこには素質と運がひどく作用するともいっている。

e 相 撲

理想的練習開始年令は, 15才から18才の4年間に限られ, 平均16.4才である。高等学校時代が71.5%で, 残りの28.5%も18才となっている。

理想的練習開始年令とまねごと年令との喰い違いは4.4年で, より若年で練習を始めているようであるが, 正式練習開始年令との喰い違いは1.7年で, 就職年令との喰い違いはさらにせまくなって1.4年である。

理想的練習開始年令を定める為めの理由は, 身体的条件からで, 身体がかたまらぬうちから身体を作ることが必要であると共に, 柔軟であるから無理な稽古ができる (5件)。

肉体的精神的に余裕ができ運動神経が働らくようになってから (3件)

指導し易い (2件), 稽古が身につく (1件) などになっている。

理想的練習開始年令

年 令	舞 踊	邦 楽	洋 楽	野 球	相 撲
3			1		
4	2				
5		1	2		
6	5	1			
7	1	2			
8	1		1		
9					
10		3	1	5	
11					
12		2		1	
13	1		1	1	
14				3	
15				2	4
16			1	1	5
17					1
18				5	4
19				1	
20				3	
22			1		
23	1			1	
24			1		
N	11	9	9	23	14
A. V	8.1	8.8	11.8	15.4	16.4
M. V	± 3.61	± 2.22	± 6.09	± 3.32	± 1.04

理想的練習開始年令とまねごと年令，正式練習開始年令，就職年令との喰い違い

喰い 違い 年数	舞 踊			邦 楽			洋 楽			野 球			相 撲		
	まねごと	正式開始	就 職	まねごと	正式開始	就 職	まねごと	正式開始	就 職	まねごと	正式開始	就 職	まねごと	正式開始	就 職
0	2	2		3			1			1	1	4	3	2	4
1	3	4		1	2		3		1	2	5		1	2	2
2			2	1	1		1			2	2	4	1	2	5
3	1			1	2	1		1	1	5	3		2	3	3
4	1			2	1			1		1	2	1			
5				1				1	1	2	4	2	2		
6	1	2			1	1		1	1	2	4	3			
7		1								1	1	1			
8			1		1	1				2		3	3		
9		1					1			1		2	1		
10					1	1		1		1		1	1		
11			2			1		1		1		1			
12			2												
13	1	1				1		1		1					
14			1				1		1			1			
15			1			2				1					
16															
17								1							
19									1						
33			2						(2)						
N	9	11	11	9	9	8	7	8	8	23	22	23	14	9	14
A. V	3.2	4.1	13.9	2.1	4.2	10.1	4.0	8.6	13.6	5.6	3.5	5.4	4.4	1.7	1.4
									(2)						
									(29)						
									(32)						

理想的開始年令以下では，身体ができておらないから，はげしい相撲の運動に堪えられない(13件)とするのが大部分で，その他に職業として考える力が足りないとするものが1件あった。

反対にこの年令を過ぎてからでは，身体が成熟し，かたまってしまって，上達が望めないとするもの7件，長い稽古ができないが1件，

或いは，若い人に及ばないから嫌気がさすとか，相撲社会になじめないとか，人につかわれるのがいやになるなど社会的理由が5件であった。

年令的におくれて練習を始めた場合，成功する条件は，殆んど全部が努力と稽古であるといっている。

り，及びヌ 現職と関係あったと考えられる趣味または作業名。

現職に入る前に就いたことがある職業名とその年数。

この両調査項目に対する回答は、回答そのものが少ない上に、無反応も多く、採り上げることができないので、ここでは触れないことにする。

調 査 票

現在の職業名	所属団体名
ふりがな 氏 名	明治 大正 昭和 年 月 日 生 歳
地 位	
年 令 参考欄	就学前 小学校 中学校 高等学校 大 学 その後 6 ~ 12 ~ 15 ~ 18 ~ 22 才
イ. 現職の基礎又は初歩を見よう見まねあるいは遊びとして始めた年令	
ロ. それを先生又はコーチについて正式に習い始めた年令	
ハ. 現職と同じことをする部、クラブに所属し部員又は選手として活動し始めた年令	
ニ. 現職に正式に就いた年令	
ホ. 現職は理想として何才頃から始めることが適当だと思いますか。	才
ヘ. その年令未満ではなぜ不適當ですか。	その理由
ト. その年令以後ではなぜ不適當ですか。	
チ. その年令以後で始めて成功する為めの条件として何が必要ですか。	
リ. 現職と関係あったと考えられる趣味または作業名	(1) _____ (2) _____ (3) _____
ヌ. 現職に入る前に就いたことがある職業名とその年数	(1) _____ (年) (2) _____ (年) (3) _____ (年)

記 入 心 得

1. 上の調査票のイ～ホの項目について始められた年令を算用数字で記入してください。明白でない場合は「頃」という文字をつけてください。

(年令参考欄で、就学前・小学校・中学校・高等学校・大学としてありますが、これは現在の学校制度でありますので、旧制の方はその下に当てはめてある年令によってきめてください。)

2. ホ～チの各項目の質問に回答してください。
3. リの項目については、現職と関係あったと考えられるあなたの趣味または作業名を _____ に例示のように記入してください。

例 示 現 職 力 士
(1) 柔 道 (2) 登 山

4. 現職に入る前に、他の職業についていたことがある方は、ヌの項目の _____ に前職名を、() にその年数を例示のように記入してください。

例 示 声 楽 家……ピアニスト…と変って現在作曲家
(1) 声 楽 家 (5年) (2) ピアニスト (10年)